

特定事業者排出量削減計画書 (新規・変更)

住所 (法人にあっては、主たる事務所の所在地)	京都市右京区嵯峨明星町1-1				
氏名 (法人にあっては、名称及び代表者の氏名)	京都バス株式会社 代表取締役 西川 康夫				
特定事業者の主たる業種	一般乗合、一般貸切、特定旅客自動車運送事業				
該当する事業者要件	<input type="checkbox"/> 京都市地球温暖化対策条例施行規則第4条第1号該当事業者 (大規模エネルギー使用事業者 (原油に換算して1,500キロリットル以上)) <input checked="" type="checkbox"/> 京都市地球温暖化対策条例施行規則第4条第2号及び第3号該当事業者 (大規模運送事業者 (トラック又はバス100台以上/タクシー150台以上/鉄道車両150両以上)) <input type="checkbox"/> 京都市地球温暖化対策条例施行規則第4条第4号該当事業者 (その他の温室効果ガスの大規模排出事業者 (二酸化炭素に換算して3,000トン以上))				
計画期間	平成 20年 4月 ~ 平成 23年 3月				
基本方針	グループ会社独自の環境マネジメントシステムを導入し、環境保全や資源の保護に配慮し自然環境に優しい企業活動を行う。				
推進体制	専務取締役を統括者、管理部長を環境責任者、各課課長を推進委員と定め、自主基準による目標を設定し、環境改善計画を構築し活動する。又結果について確認を行い、不適合なものは見直し是正を行う。				
	環境マネジメントシステム名称	京阪グループ環境マネジメントシステム			
	適用範囲	本社・高野営業所・嵐山営業所			
年度ごとの具体的な取組及び措置の計画	取得年月日 (導入年月日)	平成18年4月1日			
	年度	設備、対象、工程等	計画内容		
	20~22	事業用バス	エコドライブ・アイドリングストップの徹底、最新の排ガス規制に適合した車両への代替、排ガス低減や燃費向上を図る為適正な車両整備を実施し、燃料消費率を3%改善する。		
	20~22	事務所・控室電力	クールビズ・ウォームビズの推進により電力の使用量を5%削減する。		
温室効果ガスの排出量等	20~22	事務用品購買	エコオフィス、グリーン購入に取組む。		
	排出区分	基準年度 (実績) (19) 年度 (二酸化炭素換算)	目標年度 (計画) (22) 年度 (二酸化炭素換算)	増減率 (計画)	
	A 事業所等排出区分	184.0 t	180.0 t	-2.2 %	
	B 輸送車両排出区分	5,561.0 t	5,400.0 t	-2.9 %	
	C その他排出区分	195.0 t	195.0 t	0.0 %	
排出合計	5,940.0 t	5,775 t	-2.8 %		
目標設定の考え方					
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	用途区分	原単位の指標	基準年度 (実績)	目標年度 (計画)	増減率 (計画)
	嵐山営業所	二酸化炭素換算 (走行距離)	1.009 kg-CO2/km	0.980 kg-CO2/km	-2.9 %
	高野営業所	二酸化炭素換算 (走行距離)	0.978 kg-CO2/km	0.950 kg-CO2/km	-2.9 %
		二酸化炭素換算 ()			%
原単位の指標及び計画数値設定の考え方		嵐山営業所、高野営業所ともに、走行距離を原単位に2.9%以上の改善を目指す。			
地球温暖化対策貢献量	対策等の区分	目標年度 (計画)			
		取組量等	(二酸化炭素換算)		
	森林の保全及び整備	(整備面積)	ha	(吸収量)	t
	市内産の木材の利用	(利用量)	m ³	(削減量)	t
	自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給	(発電量)	kwh	(削減量)	t
		(熱供給量)	GJ	(削減量)	t
	グリーン電力の購入	(購入量)	kwh	(削減量)	t
削減量等合計				t	
地球温暖化対策に資する社会貢献活動					
特記事項	・(社)京都府自動車整備振興会と京都府による、「エコカーマイスター」の講習会に整備係員及び関係事務員が参加し、適正整備やエコドライブの推進に努めている。				

注 1 該当する口には、レ印を記入してください。

2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度をいいます。

3 「事業所等排出区分」とは本市の区域内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を本市の区域内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の本市の区域内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。

4 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、〇〇工場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標 (製造品出荷額、延床面積、走行距離等) を記入してください。

5 「地球温暖化対策に資する社会貢献活動」には、省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献や地域における環境教育の実践活動など、地球温暖化対策や環境負荷の低減につながる活動を記入してください。

6 「特記事項」には、1990年を基準とした排出量の対比や、温室効果ガス排出量の算定に当たって独自の係数を使用した場合など、説明を要する事項について記入してください。